

専攻科だより

— 新年度のスタート —

専攻科長 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 多田 光男

生産システム工学専攻主任 藤本 隆士

「次の飛躍を目指して」

専攻科長・葛目 幸一

平成19年4月に「生産システム工学専攻」三期生9名が新たに専攻科に仲間入りし、総勢32名の学生が研究と勉学に励んでいます。平成17年4月に「生産システム工学専攻」一期生、8名の入学生を迎え専攻科がスタートし、早2年が経過しました。この3月には一期生全員が無事、学士号を取得し大学院へ進学、就職を果たしました。また、「海上輸送システム工学専攻」一期生10名も既に大学院進学や大手船会社、陸上企業等にも内定しており、現在、9月の専攻科修了と学士号取得に向け日々努力を重ねているところです。来年3月には「ものづくり教育研究棟」が竣工する予定でハード面での充実を着実に進んでいます。今後は多田、藤本専攻主任と一丸となってソフト面の一層の充実を図りたいと考えております。よろしくお願いたします。(H19.7発行の商船だよりに抱負を書かせていただきましたのでご覧ください。)

「海上輸送システム工学専攻に託す夢」

海上輸送システム工学専攻主任・多田 光男

ご承知のように、海運や造船は大変な活況を呈しています。また、団塊世代の大量退職時期とも重なり、引く手あまたの求人に応募する者はうれしい悲鳴を上げているのが現状です。しかし、海事技術者に要求される技術・能力レベルは年々高度化してきていることも事実です。船舶運航はもとより、システム管理、マンマネジメント、リスク管理、プレゼンテーション、英会話、法律など、広く深い知識、技術が必要となりつつあります。基礎的な商船学をマスターし、1年間の長期大型練習船実習を終え、三級海技士の資格を保有している者が、さらに上記に述べた海事技術者に要求される技術・能力のブラシアップ、スキルアップを図るための教育プログラムが本専攻科と認識しています。商船学科の多くの学生が「専攻科で自分も勉強したい」と思えるような魅力ある課程の育成に微力ながら尽力したいと思っています。よろしくご指導、ご協力をお願いします。

「専攻科学生の特徴は何か」

生産システム工学専攻主任・藤本 隆士

学会等で、色々な大学の先生方と話をしているとき高専専攻科を卒業して大学院に進学した学生についての様子を探ると、一様に、専攻科から来た学生は優秀であるとの答えが返ってきます。受験勉強を乗り越えて来た学生と比較して、何がどのように違うのかと何うと、疑問を持ち、自分で調べたり、工夫をする積極性が大きく異なるということです。そのよ

うな、積極的な姿勢が育つ大きな要因として、専攻科の少人数教育が揚げられると思います。特別研究やゼミ、また、授業でも、学生個人の特徴に応じてきめ細かい講義を行うことができます。その結果、能動的な姿勢が身に付いてくるのだと思います。専攻科学生の皆さんには、「疑問を持ち、自分で調査・研究しようとする姿勢」を持ってもらいたいと思います。例えば、特別研究の指導教員の先生方が忙しいとき、いつまでも指示を待って、何も言われなからと遊んでしまうのではなく、今やるべきことを判断し、自分で解決していこうとチャレンジしてください。この、姿勢こそが専攻科学生の特徴です。これを忘れずに、授業と研究に向かってもらいたいと願います。



平成19年度 海上輸送システム工学専攻・在校生



平成19年度 生産システム工学専攻・在校生

専攻科1期生の進路状況

海上輸送システム工学専攻 (H19年9月修了予定)

進学 : 神戸大学大学院 (2名)

就職 : 玉井商船株、まるいち海運株、太平洋海運株
川崎汽船株、日本海洋事業株、共栄タンカー株
大洋日本汽船(株)、西芝電機(株)

生産システム工学専攻 (H19年3月修了)

進学 : 神戸大学大学院、九州工業大学大学院
愛媛大学大学院、徳島大学大学院

就職 : 旭化成(株)、KYB(株)、矢崎総業(株)、
トヨタテクニカルディベロップメント(株)